

# O.S.P



VOL.16  
February

{ OSPREY / SPIRITUAL / PERFORMER }

無料

ご自由にお取りください



O.S.Pプロスタッフが  
ホームレイクを徹底紙止ガイド

## The Field Guide

～山岡計文@七色貯水池～

二人の新顔プロスタッフが明かす必須ルアー

## 二羽の鶺鴒の眼

2月のカスミ・利根川水系おっぱり必須アイテム  
北田朋也 / 本田賢一郎

## Keep it on the down low!!

—並木敏成が語る  
あのルアーの真実—

～極寒期のカスミ水系おっぱりで外せないルアー～

## The Kotaro's Maxims

オーバーライドの  
おっぱり使いこなし術

並木敏成&O.S.Pの最新情報はこちら。

並木敏成 ↓

O.S.P ↓



# Journal









item オーバーライド

消波ブロックの穴でリフト&フォール。

今回は2月のカスミ水系でオススメのルアーを紹介させていただきます。私がオススメするルアーはオーバーライドです。このルアーのいいところは泳ぎ出しのよさと、スライドフォールにあります。私の場合、越冬場となる消波ブロックの穴の中にいるバスをオーバーライドを使って狙っていきます。使い方はリフト&フォール。20~30cmぐらいリフトし、フォールさせて着底したら止める。ちなみに私は1~3秒ほど止めることが多いです。フォール時と、このフォールを見て寄ってきたバスに次のリフトで、ともにリアクションバイトを誘発することができ、ウエイトとカラーの使い分けですが、私はベイトフィネスタックルで3/16ozを中心に(写真は3/8oz)、反応がない場合はフォールスピードを速くするために1/4ozへ重くしたり、1/8ozへサイズを小さく、軽くしたりして使い分けています。カラーは、逆鱗が好きでよく使っていますが、濁りが強いときはコスモブラックをチョイス。バスの反応や水質によって、これらのカラーを使っています。寒さの厳しい時期の一匹を、ぜひ！オーバーライドで狙ってみてください!!



オーバーライド



item ダンク

探す、誘う、食わせるシャッド。

厳寒期を迎える2月の利根川水系でのおすめルアーをご紹介します。この時期キーになるのがブレイク絡みのテトラやハードボトムです。冬でも回避性の高い利根川水系のバスは、タイダルや天候などで広大なエリアから「探す」作業が必要です。中でもブレイクに隣接した消波ブロックやハードボトムはカレントを避けることができ、ベイトの捕食のしやすさからバスの滞在時間も長いので、出会える確率が高いエリアです。そこで活躍してくれるのがダンクです。ブレイクを狙う際に必要不可欠な、狙う水深へ



ダンク

の到達速度の速さ、スナッグレス性の高さ、そして0.5m~4.0mという広いレンジで使用できるのは計り知れないアドバンテージです。また厳寒期特有の掛からないショートバイトも、スリムかつコンパクトなボディ形状により確実にフックアップできることもダンクを選択する理由です。アクションはキャスト後、ボトムにコンタクトするまで潜行させ、ストップ&ゴーをボトム付近で繰り返すことを基本に、消波ブロックのトップやハードボトムの張り出しでのロングステイ、または軽くトウイチを入れるとよりバイトが得られます。厳寒期の釣行にぜひご活用ください。



このコーナーでは、O.S.Pが誇るプロスタッフ陣が自身のホームレイクのシーズンパターンをもとにこの時期に欠かせないアイテムとその使い方解説。ぜひ参考にしてほしい。

2月のカスミ・利根川水系おかつぱり必須アイテム

らないうショートバイトも、スリムかつコンパクトなボディ形状により確実にフックアップできることもダンクを選択する理由です。アクションはキャスト後、ボトムにコンタクトするまで潜行させ、ストップ&ゴーをボトム付近で繰り返すことを基本に、消波ブロックのトップやハードボトムの張り出しでのロングステイ、または軽くトウイチを入れるとよりバイトが得られます。厳寒期の釣行にぜひご活用ください。



自分の釣り愛を理解してもらい、家族を大切にすること。

「釣りに必要な物はドンドン買ってね」と、協力的です。あまりに高すぎるのは無理ですが、道具だけではない、釣りに行く時間についてもわかってくれるので、余計な説明も不要です。ボクたちアングラーは家族を大切にしているからこそ、家族の理解を得て釣りに行くことができるのです。例えば釣りが嫌いな家族を持つても、家族を大切にしていればいつかはわかってもらえるはず。それでは、いいフィッシングライフを!!

みなさんこんにちは！ O.S.Pプロスタッフのジェイソン・フェリスです。正直言いますが、バツイチのボクから釣りに行くために家族に何をしているかなんて、言えた身分ではありませんが、(汗)

それでもボクの経験上、一番大切なことは相手に(家族を含む)、自分が異常なまでに釣りを愛していること、それは時として家族や自分のこと以上に魚を愛してしまっていることを、家庭を作る前に理解してもらうことです(笑)

このボクの魚への愛を理解してくれるのは世界共通で、同じ魚を愛する釣りガールしかいません。なので最近、女性アングラーが増えています。釣りに理解のある女性も増えていることは我々男性にとつて大きなチャンスです！(笑)

実際、ボクは釣りを通して今の奥さんとは全く違います。デートはもっぱら釣りだけで出たが、文句ひとつ言われませんでした。結婚した後も「釣りに必要な物はドンドン買ってね」と、協力的です。あまりに高すぎるのは無理ですが、道具だけではない、釣りに行く時間についてもわかってくれるので、余計な説明も不要です。ボクたちアングラーは家族を大切にしているからこそ、家族の理解を得て釣りに行くことができるのです。例えば釣りが嫌いな家族を持つても、家族を大切にしていればいつかはわかってもらえるはず。それでは、いいフィッシングライフを!!

あなたなら、どうする？ どうしてる？

釣りに行くための○○

PRESENT!

event@o-s-p.net



応募方法\_希望者はメールにて、件名「O.S.P JOURNAL プレゼント係」とし、以下の項目にお答えください。

並木敏成おすすめの極寒おかつぱりルアーセット

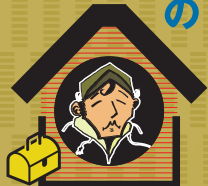
- ①\_このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- ②\_このパンフレットの率直な感想
- ③\_このパンフレットに求める情報
- ④\_釣り歴とホームグラウンド
- ⑤\_O.S.Pで好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。締切は2017年2月28日(火)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

個人情報について\_ご提供いただきました個人情報情報は厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはございません(法令等により開示を求められた場合を除く)

オリキンの

ブリッツヘビーヒッター!?



ヒミツの小屋

ゴロゴロと響く重低音が特徴的なダイバジンヘビーヒッターですが、濁ったり、波立ったりしたとき、その存在がかり消されてしまいます。特に水量の多い薄濁った流れ込みでは中層をハイアピールできるモノが必要…そこでこのゴロゴロ音を生かしつつ、ちょっと沈ませたらいいんじゃないか、と。リップを寝かせる分だけその根元を削り、空いた隙間にブラリアヘアを充填。ダブルフック仕様で根掛かりも回避。存在感パッチリのサブサーフェスランク、というかヘビーヒッター-BLITZかな…(笑)





# KEEP IT ON THE DOWN LOW

これは、ここだけの秘密  
並木敏成が語るあのルアーの真実と  
ということ

Theme

## 2月のカスミ水系おかつぱりベスト3

このパンフレットを手にした、あなただけが知ることができるあのルアーの真実と、本当の使い方。

### 極寒期のカスミ水系おかつぱりで外せない シャッド、メタルバイブ、ダウンショット

いよいよ極寒期がやってきたね。でも臆することなかれ。この時期でもバスをキャッチしようと思えば、その方法はいくつかある。その中でもカスミ水系のおかつぱりという条件下で、自分なりに選んだおすすめのルアーとその使い方を紹介しよう。

ここでは大きく分けて3つ+αの釣りがあ。ひとつはシャッド系。次にメタルバイブ。そして最後はダウンショット。使いどころと使い方を理解しておけば、これまでよりも真冬に釣れる確率は格段に上がるだろう。ぜひ参考にしてほしい。

### 名だたるシャッドは数あれど 群を抜く際立った性能を持つダンク

まずはシャッド。O.S.Pではダンクとハイカットの2タイプをラインナップしているが、極寒期は迷わずダンクをチョイス。名作と評されるシャッドは数多くあるが、ダンクはそれらと一線を画す際立った性能を持っているのはすでにご存じだろう。しかし、あえてここでもう一度、その「際立った性能」について、解説させてもらおう。

ダンクは急角度で潜行し、ボトムストラクチャーをなめるように、なおかつ引っ掛からずにトレースすることができる。しかも超スローに。この性能は、

サスペンドモデルを主軸に、バスが浮いているときや根掛かりが激しい場所ではフローティングモデルをチョイス。前者はボトムの起伏をなめるように、後者は止めて浮かせてバスのバイトを誘発する。いずれも、ポーズがキモ

他のシャッドの群を抜いていると自負している。

基本的にはサスペンドモデルを使うのだが、暖かい日や逆にバスが上ずる雨の日、または根掛かりが多い場所ではフローティングモデルをチョイス。なぜ、こういった日なのか。理由は明白。通常、ゴロタや消波ブロックなどの凹凸がある場所を使うのがこの時期の定番で、その起伏を小突きながら引けるのがダンクなのだが、暖かい日は水温も上がり、雨の日は先述したとおり、バスが水路内の護岸などに浮くことがある。その、壁にサスペンドしているバスのレンジに合わせて泳がせるのだ。ときに水深2mのエリアで、水面下50cm～1m以内にバスが浮いていることもあるため、潜らせたあとリトリブを止めて浮かせる。こうした釣り方ができるのは、フローティングモデルならでは。根掛かりが多い場所での使用は言うまでもないだろう。根掛かる前にスローフローティング気味に浮かせてかわすことができるからである。

もちろんハイカットシリーズもありだが、エリアが全体的に浅ければ、もしくはバスの活性がやや高めであればこちらにスイッチ。サスペンドとフローティング、どちらを使うかはダンクでの使い分けに準じてほしい。

使い方についてだが、カスミ水系のステインからマッディウオータ

ーでは、ポンプリトリブが王道。引っ掛かりのキツくないところであれば50cm～1mぐらい引いたら止める。この動作の繰り返し。起伏があるところではロッドティップを5～30cm程度という、ワームをズル引くような小刻みな移動で。10cmぐらい引くとリップがボトムの凹凸を拾うので、ちょっと当てて止める。もみほぐすようなイメージで、リップラップや消波ブロックをなめるようにトレース。それを抜けたところや、起伏の頂点では止めることを忘れずに。キモはポーズにあり！

フローティングについてもさっきも言ったとおり、サスペンドしているバスや根掛かりをかわすために浮かせることが重要になるのだが、リトリブを止める時間はサスペンドよりも短い。長く止めると浮きすぎてレンジを外してしまう恐れがあるからだ。浮かせる範囲は10cmから長くても30cmぐらいと考えると、止める時間はせいぜい1～3秒ぐらいではないだろうか。

ちなみにサスペンドモデルの場合、普通は3秒、長くても5秒ぐらい止めることもある。バスの目の前で見せるために止めているイメージだ。ただし毎回、数十センチ引いて3秒止める、なんてやっていたら時間がいくらあっても足りない。コンフィデンスのあるコースや、何か沈んでいて「釣れそう」と思うようなところでこそ、スローに、丁寧に引くといいたい。このとき、リーリングというよりはロッドワークで動かす。キャロライナリグのズル引きのように、ロッドティップを斜め下に垂らすのが基本姿勢。根掛かりが多かったり、そのレンジに対して潜りすぎて感じるときはロッドをやや斜め上に構えて潜行深度をコントロールすること。

### エサ的な動きでは口を使わないバスに リアクションバイトを誘発するメタルバイブ

次にメタルバイブ。今シーズン、新たに1/8オンスと3/16オンスが加わったことで全5サイズがラインナップしたオーバーライドを選ぶのは言わずもがな。カスミ水系のおかつぱりに限って言うと、1/8オンス、3/16オンス、そして1/4オンスが主軸となるだろう。

この主軸となるウェイトであればベイトフィネス系のタックルかスピニング。消波ブロックの際や護岸の壁、そして水門など、まわりより少しでも深くなっているところや障害物があるところが狙い目となる。本来はダウンショットなどで丁寧に釣っていくスポットではあるが、そういったエサ的な動きにも口を使わないほどタフな状況、もしくは低水温下ではオーバーライドのフラッシングを伴ったシャクリアクションに思わず口を開けてしまうバスも多い。

使い方はリフト&フォールで、必ず毎回着底させること。ボトムについたらすぐに上げるというよりも、ワンテンポ置く。ここぞという場



1/8オンス、3/16オンス、そして1/4オンスといったサイズがメインになる。まわりより少しでも深くなっているところや、何かしら障害物があるところが狙い目。着底後、ワンテンポ置くことが人と差がつく釣果を生み出す秘訣

所では3～5秒ほど止めてからリフトすることもある。ボトムに置いてあるメタルバイブをバスがついばむこともあるし、タフなときこそその傾向は顕著。またボトムに置くことで底の泥と同化して、バスの視界からオーバーライドが消えることがある。スレているバスほど、見えなくなったところからリフトによってパッと姿を現すこの瞬間のリアクションは非常に効く。長めのポーズ後のワンアクションで食う、もしくは食っていた、なんてことがあり、超メジャーな水門まわりなどでぜひお試しください。ぜひお試しください。

すでにお伝えしたことがあるが、ダブルフックをやや広げて使用することで、フッキング率およびランディング率が上がる。こちらも、ぜひ。

### 絶対に外すことのできないライトリグと 近年注目のミノーイングについても解説

あとはダウンショットリグ。ワーム的アプローチとなると、真っ先に頭に浮かぶのがこのリグだ。消波ブロックの穴の中など、太めのラインでないとバスを引き出せないようなところでは8～12lbフロロのベイトフィネスタックルで、シンカーは3.5～7gぐらい。タフな場所やここ一番という勝負どころ、もしくは何をやってもバイトが得られないならば、スピニングタックルでラインはフロロの4～5lb。根掛かりがきついついところでは、シンカーは1/16オンスと軽め。リアクション的に素早いフォール後にリーダー分ダートさせるときは1/8オンスぐらいまで、4lbで使うことがある。



真冬寄りのタフなコンディション下で選びたい、ドライブクロー2インチ。カラーについて、並木はエビミソブラックをチョイス



2.5インチ、および3.1インチを使用。バスがベイトフィッシュを意識し、横の動きに反応がいいときはこれ。カラーはネオンワカサギ



ドライブクローやHPシャッドテールでの反応が悪いときはドライブシュリンプ3インチor 4インチ。カラーはダークシナモン・ブルー&ベッパー

ワームの使い分けについてだが、ここでは3タイプを用意。真冬寄りのタフなコンディション下ではドライブクローの2インチ。バスがベイトを追い出しているようであれば横の動きを意識して、HPシャッドテールの2.5インチか3.1インチ。そのどちらか迷うときはドライブシュリンプ3インチ、4インチもありだろう。

最後に、近年注目の11cmクラスのヴァルナ、および13cmクラスのルドラといった大きめのミノーを使った釣りについても言及しておこう。

この釣りは日ムラがあり、ややローライトコンディションであるとか、風がある日(風によってベイトフィッシュが吹き寄せられるため)といった特殊条件が重なることで、ときとして爆発する。これまで春だけ有効と思われていたが、冬でもタイミングや天候次第では結果が出ているので、ぜひ試してほしい。

ミノーゲームのエリアについてはシャローフラット(ミオ筋やチャンネルが近くにあることが前提)や、リップラップを釣るわけだが、ワカサギなどのベイトの存在がキモになる。ベイトが接岸しているときはアグレッシブな大型のバスが釣れることこそ、この釣りの最大の魅力である。カイツブリやヘラサギなどの小魚を捕食する鳥類がいることが、エリア選びのひとつの目安になるので覚えておいてほしい。

本文中でも解説したとおり、ローライトコンディションや風が吹いている日に試したい、11cmもしくは13cmクラスのミノーパーン。こちらはデビューして間もなく11cmミノーの代表格の座を射止めたヴァルナ110



メインで使用するのはルドラMSF。ミディアムスローフローティングの名が表すように、根掛かりを浮かせてかわすことができる。引っ掛かることが多いリップラップなどのハードボトムでは、こちらをチョイスしたい



下定番の釣りから近年注目のメソッドまで幅広いスタイルを試してみよう!



# Field Guide

リザーバー天国と称される紀伊半島において、池原貯水池と双璧をなす七色貯水池が今回のフィールド。クリアレイクゆえ、サイトフィッシングが主たる戦略ではあるが、真冬のこの時期はディープがメイン。朝夕のフィーディングタイムは表層でのゲームがおもしろい時期でもある。

案内人はこの人

やまおかずふみ

山岡計文

池原ダムおよび七色ダムを有する下北山村で生まれ育った、ローカル中のローカルアングラー。ミドストやサイトフィッシングを得意とし、誰もが「釣れない」と嘆く中でも確実にバスを手にとることからついたニックネームは「リビングレジェンド」。JB TOP50に参戦。池原・七色でガイドを行い、下北山村村議会議員という一面も



①北山川ガレ場

この川筋の真ん中で水深15mほど。水中に大きな岩がゴロゴロと入り、これにバスがつく。北山川で見るとスローブロクマル下流のアウトサイドのディープ(エリア⑮)の次に深いエリア。岩盤の前には道路跡が沈んでおり、これがガレ場とつながっている



②旧発電所跡

七色貯水池を象徴するスポット。この建造物の対岸、下流に向かって右に大きく曲がっている張り出しが沖まで伸びており、ここが狙い目。この岬状の張り出しがメインチャンネルと接続する部分は、七色貯水池の冬の定番エリア。最深部で水深20m前後



③Ts-ON前

貯水池ができる前の集落が沈んでおり、当時の石垣がボトムに残っている。水深10~11mぐらいにあり、そこから2~3m落ちる。ヘビダンなどでチェック



①放水口下流北山川ガレ場

北山川



⑮スローブロクマル下流アウトサイド

北山川上流域ではじめて水深10mを超えるエリアがここ。岩もゴロゴロと入り、真冬でも活性の高いバスが溜まっていることも。エリア①でバスの反応がないとき、ここまで上がっていることも考えられる

⑮スローブロクマル下流アウトサイド



★……: スロープ&レンタルポート ロクマル

七色貯水池の本流、北山川筋の上流エリアに位置するレンタルポート。ニーズに応じて多彩なタイプのレンタルポートを揃えているだけでなく、スロープも兼備しており、マイボートでのエントリーも可能。毎日更新される釣果情報のブログは必見。釣行前の参考に、ぜひ一読いただきたい。<http://www.slope60.com/>



《七色おすすめルアー①》

マイラーミノー(ノーシンカー&ジグヘッド)

フィーディングタイムにはノーシンカー。表層で浮かせて誘う「ピクピク」で使用。ジグヘッドでのミドストは山岡が最も得意とするスタイル。あらゆる場面で出番となる欠かせないアイテムだ

④西の川入口

北山川と西の川の合流点。シーズンを通してシャローもディープも魚影が濃い。橋の上流側、西の川に入った側の張り出し付近、対岸、そして橋脚まわりと実績の高いスポットが点在。日中はディープメイン、夕方はシャローからミドルを意識した攻め



⑤西の川 インターセクション 下流崩落跡

⑤西之川インターセクション下流崩落跡

斜面に生えていた木々が、がけ崩れによって水中に沈んでいるエリア。水深18mぐらいまで木が折り重なって沈んでおり、自然とバスも集まってくる。こういったスポットが湖内にいくつもあるので要チェック!



⑥北山川中流アウトサイド岩盤

北山川の中流域にある、最も大きくベンドしたアウトサイドにある岩盤。日が当たる側に位置し、水温が上昇しやすい。この岩盤の張り出しやえぐれ、立ち木の根元、底面に絡んでいるオダ状の枝などを撃つていく



《七色おすすめルアー②》

ドライブスティック(フリリグ)

シンカーが先に沈んだ後、ダートしながらワームが沈む。このイレギュラーな動きでリアクションバイトを誘発する韓国発祥のスタイル



高尾谷

⑧高尾谷 インターセクション

⑨ひさや対岸下流

大又川

⑩黒潮ワンドインターセクション張り出し

⑪北山川下流崩落跡



《七色おすすめルアー③》

i-Waver SSS

マイラーミノーのピクピクと使い分ける。対フィーディングバス用。超スローに引いてくるだけでOK。山岡のおすすめカラーは視認性と食わせに長けるT.N.シークレット小魚



《七色おすすめルアー④》

HPシャッドテール2.5インチ

ディープを広く探るときはキャロ(七色のディープ攻略の定番)、ピンスポットで食わせるときはダウンショットと、何かと出番が多いアイテム。キャロではボトムの変化をなめるように丁寧にトレースすること



サイズこそなかなか伸びないものの、バスが溜まっているスポットを見つけ出せば真冬の数釣りも難しくない。キャロで広範囲を探り、ピンスポットはダウンショット。シャローカバーの釣りもタイミングによっては生きるし、表層の釣りもおもしろい。それが冬の七色貯水池の魅力!

朝イチ、フィーディングでシャローに上がってきている個体のバイトを得た。真冬でもポイルしているようなバスにはi-Waverが絶大な効果を発揮する



HPシャッドテールのダウンショットで手にした一匹。カラーは水温が下がって水がクリアアップしたときに有効なコーストジュリン。山岡のフェイバレット

⑭大又川上流レイダウン

上流側にサンドバーがあるストレッチのアウトサイド。岸際の木が切り倒されて、バンクにはレイダウンが続く。冬の午後、水温上昇のタイミングでこのレイダウンを伝ってシャローにバスが上がってくる。昼過ぎから夕方にかけてはシャローからミドルがおもしろい



⑨ひさや対岸下流

レンタルポートひさやの下流に位置するインサイドの張り出し。このまわりに立ち木が残っており、かつ流れが岩盤に当たって渦を巻くような反転流ができる。この反転流によって集まった流木やゴミが沈んでいる。水深10~18mまで、非常に変化に富んだスポット



⑩黒潮ワンド インターセクション張り出し

大又川と黒潮ワンドの合流点にある、大きく張り出したインサイドの岬。この沖はフラットな地形が続いており、インターセクション部ということもあってバイトも溜まりやすい。岬の先端から下流側は一気にストンと落ちていて、そのエッジにもサカナが付きやすい



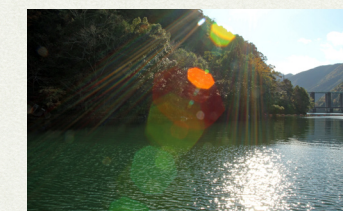
⑪北山川下流崩落跡

本流で最も規模が大きな崩落跡がここ。エリア⑤よりも深いところまで木や岩が沈んでおり、その水深はおおよそ20mぐらいまで。こういったエリアでは根掛かりに強いO3ハントは水中の枝にラインを引っ掛けて、ほぼ水平姿勢で誘えるのでおすすめ



⑬ダムサイト上流ワンド(別称:世界のワンド)

ダムサイト手前があるブイまで、釣りができるエリア。このワンド状のくぼみには台風などの大雨で流されてきた流木が沈んでおり、ここに冬場、バスが集まる。別称の由来はこちらの動画をチェック!! <https://youtu.be/mCoFQcOb8Ag>



## 七色貯水池のシーズンパターン ディープを軸に、朝夕は表層ゲームも

いよいよ、一年で最も厳しいシーズンが到来。最低水温を記録し、すべての生命が姿を消してしまったかのような錯覚に陥ることも少なくないだろう。そんな状況下でも、七色貯水池でバスを確実に手にできるスポットを、O.S.Pプロスタッフの山岡計文が紹介する。「2月の七色では、水温の低下とともにバスは徐々に水深のある下

流部へと下ってきます。したがってまずは上流部から見て、最初のディープに当たるエリアから釣り下っていくのがセオリー。ただし、ディープだけにとらわれてはいけません。たとえ真冬でも、朝夕のフィーディングタイムは表層で反応を得られることも少なくありません。i-Waverやマイラーミノーのピクピクなどは、忘れてはならないアイテムです」

ひと言でディープといっても、単純に深ければいいというものではない。岩があったり、オダ状の沈んだ枝など、何かしらの変化があることが必須条件となることを覚えておこう。

